

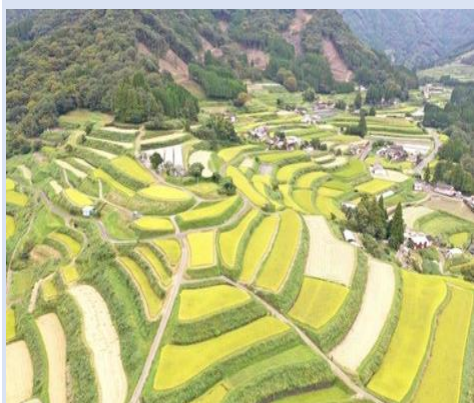
農村地域づくりをはじめよう！

ー農村型地域運営組織（農村RMO）の形成ー

農山漁村地域とりわけ中山間地域は、農業の重要な拠点となっていますが、急速に高齢化が進んでおり、農業のみならず地域での暮らしそのものを続けていくことが難しくなっている地域もあります。地域づくりは、地域の様々な関係者が連携し、地域での暮らしをこれからも続けるために話し合い、活動することがその第一歩となります。

このような中、農村RMO(複数の集落機能機能を補完して、農用地の保全活動や農業を核とした経済活動と併せて、生活支援等地域コミュニティの維持に資する取組)を構築し、地域住民の話し合いのもと、地域づくりの方向性を定め、地域ぐるみによる取組が進められています。

農用地の保全



地域ぐるみの農地の保全・活用

地域資源の活用



直売所を核とした域内経済循環

生活支援



集荷作業と併せた買い物支援

お問合せ 農林水産省北陸農政局 農村振興部 農村計画課 直接支払班
076-263-2161（代表）/076-232-4531（農村計画課直通）

1. モデル的な農村RMOの姿

旧小学校区などの複数集落の範囲で、地域の暮らしを支える様々な団体と連携し、農用地保全、地域資源の活用、買い物支援などの生活支援に取り組んでいます。

POINT

1

活動範囲

複数集落(小学校区など)

地域づくりの活動範囲は、複数集落が望ましいです。その理由は地域コミュニティを維持する機能を取りそろえることが可能となるからです。自治や生涯教育など、様々な団体が[旧]小学校区を単位として作られ、公民館(地区館)などの活動拠点も充実しています。また、[旧]小学校区は「顔が見える関係」の距離感であり、活動を担うメンバーを集めやすいという点もメリットです。

※近年小学校が統廃合された多くの地域では、閉校前の小学校区を引き継ぎ各団体の活動の単位としています。

さまざまな「地域」の範囲



◎各組織の活動範囲は、地域によって異なります。
ご自身の地域の場合を、図で整理してみましょう。

POINT

2

組織体制

多様な地域関係者との連携

地域づくりにはさまざまな人や組織がかかわっています。地域の課題を解決するためには、地域の関係者が連携することが重要です。

「○○地域づくり協議会」などの地域運営組織(RMO)がすでにある地域では、農業関係者を交えた運営によって農村RMOの機能を果たせます。

RMOのない地域では、地域づくりの中核的な役割を果たしている人や組織と協力しながら、農業を続けていくための課題を共有し、みんなで地域づくりを進める機運をつくることが重要となります。

さまざまな地域づくりのプレイヤー



※組織形態や名称は地域によって異なります。

POINT

3

活動内容

農用地の保全・地域資源の活用・生活支援

地域の関係者が連携し、農村RMOを形成することで、地域での暮らしを続けていくためのさまざまな活動ができます。地域で農業を続けていくために、農用地の保全が欠かせません。かつては農家が総出で行っていた作業も、高齢化や人口減少によって、自前ではできなくなっている地域もあります。農村RMOを中心として地域住民により必要な作業を整理し、人手を確保することで、農用地の保全をより効果的に行えます。

地域資源を活用した販売や体験などの事業は、農村RMOの運営資金や農業者の収入を充実させることにつながります。また、特産品や体験をととして地域の魅力がより多くの人に伝われば、関係人口の増加にもつながります。

生活支援は、地域づくりに欠かせません。地域住民の生活を知っておくことで、安心できる暮らしにつながります。

これらの活動を進めるために、これまでさまざまな組織で行ってきた活動を整理し、地域の課題に沿って見直すことが有効です。次のページから、農村RMOの立ち上げ・運営のポイント、順を追って解説します。

農村RMOの活動内容(例)

農用地の保全	●あぜ道や農道の整備(道普請) ●用水路の清掃(泥上げなど) ●周辺林地の整備(枝払い、間伐など) ●農地の利用計画作成
地域資源の活用	●農産物の加工・販売 ●都市部との交流(体験など) ●農泊・グリーンツーリズム
生活支援	●高齢者の見守り ●移動支援(買い物・通院など) ●雪かき・草刈り・ごみ出しなどの支援 ●子育て支援

◎地域の将来像(ビジョン)に沿って
優先度の高いこと・できることから取り組む

2. 農村RMO形成・運営～農村RMOの立ち上げ方～

農村RMO的な活動を展開する地域の話や、一般RMOの運営手法をもとに、組織の形成から活動の継続まで順を追って紹介します。

立ち上げ期

STEP

1 仲間を集める

すでに地域にたくさんの団体がある中で新しい組織を作るには、思いに共感する仲間が欠かせません。地域のキーパーソンに相談し、様々な団体や行政とつないでもらうことで、仲間が広がります。組織として持続的に活動ができる体制を作るために、協力してくれる人の確保が大切です。

POINT

- 仲間集めのポイント
- キーパーソンと連携する
- 既存組織を活かす

STEP

2 思いを共有する

農業に取り組む環境を守るためには、非農業者の協力が重要です。農業を守ることは地域を守ることだと伝え、「このままではいけない」「地域をより良くしたい」という思いを持った仲間と連携することで、地域づくりの幅が広がります。

POINT

- 輪を少しずつ広げる
- みんなで話せる環境をつくる
- 事実+可視化で納得する議論へ
- 楽しく続けるのが大切

STEP

3 将来像を描く

地域の課題を整理してみましょう。そして、将来この地域をどうしたいか話し合ってみましょう。一見実現が難しそうでも、地域の関係者を整理して「誰が何をできるか」を洗い出したり、細かな段階に分けて考えたりすることで、解決のヒントが得られるかもしれません。

POINT

- “少し頑張れば達成可能”なビジョンを定める
- 「みんなで決める」説得力
- 計画倒れに終わらせない

STEP

4 人と資金を確保する

地域づくりを安定して続けるために、人と資金の確保は非常に重要です。地域内外の人材に目を向け、企業や団体・行政などと連携することで、組織や活動の安定化につながる新しい仲間を見つけることができます。

POINT

- 新しい「仲間」を見つける
- 企業や団体と連携する
- 行政の支援制度を調べてみる
- 収益事業に挑戦する

STEP

5 活動を継続する

「0を1にすること」と「1を10にすること」は異なるスキルが必要とされます。そして、「10を10のまま保つこと」も重要です。活動に関わる人と資金について、継続のために必要になることを紹介します。

POINT

- 小さく生んで、大きく育てる
- 負担の軽減とやる気の維持
- 収支を把握し、安定化させる

STEP

6 活動を引き継ぐ

設立メンバーや一部のキーパーソンに過度の負担がかからないようにし、組織として分担して地域づくりに取り組むことが必要です。また、次世代のリーダーを育成し、引き継ぐことができれば、これからも持続的に地域づくりに取り組めるでしょう。

POINT

- 法人化による組織の安定化
- 業務の属人化を防ぐ「仕組み化」
- 組織のあり方を見直す

運営期

継承期

3. 移住しやすい地域づくりのためのポイント

移住者を呼び込み、一緒に活動することは、地域づくりの発展につながります。「移住しやすい」地域になるためのヒントを紹介します。

移住者の立場として嬉しかったこと

農村の地域づくりの新たな担い手や、次世代のリーダー候補として、移住者の方々が力になります。地域での暮らしに慣れて、地域づくりに積極的に関わる方々は、どんな思いを持っているのでしょうか。

能登で活躍する移住者の方5名に、お話を聴きました。

移住する方は、生活環境や仕事が大きく変わるため、移住にあたって何かしら不安を感じるものです。

その中で最も多い不安が、人間関係に関するものです。

地域に長年住んでいる方のちょっとした声掛けなどで、移住したばかりの方が、より地域になじみやすくなります。

移住者の方が、地域の方にしてもらって嬉しかったことから、4つ紹介します。

1

地域のキーパーソンと、早いうちにつなげる

自治会長(区長)など、地域のことをよく知るリーダー格の方と、早いうちに関わることで、地域の人を紹介したり、地域のルールや必要なことを伝えたりできます。市町村の移住支援センターなどでは、移住前に現地を訪れ、キーパーソンの方と交流する機会を設ける場合もあります。移住してからも、地域のことを教えてくれる世話係のような位置づけの方がいることで、移住者は地域の暮らしになじみやすくなります。

2

地域の活動に、声をかけてみる

地域には、祭りや草刈りなど、住民が集まって行うことがたくさんあります。移住者の方がこれらの行事にまず参加してみることで、地域での人間関係が広がったり、地域の理解が深まったりします。

移住して間もないと、行事があることや参加できることがわからない場合もあります。地域のキーパーソンの方や、近所の方々などに「次はこんな行事があるよ」「参加してみてね」と声をかけてもらえると、地域に溶け込む機会が広がります。



3

相談できる仲間を紹介する

地域のキーパーソンの方や、同世代の方など、ちょっとした聞きたいことがあるときに相談できる仲間があると、心強いです。日常生活や人間関係に関することから、新しくやってみたいことのアドバイスなど、気軽に話せる仲間があると安心です。関心や生活スタイルが近い移住者仲間が、SNSなどでつながる場合もあるので、仲間になりそうな方を紹介するのも良いでしょう。

4

お互いに、無理しすぎない

地域づくりには様々な役割があり、積極的な移住者の方にたくさん声がかかることもありますが、お互いに無理をしないことが大切です。本人の生活状況や、地域に必要な役割を共有して話し合い、どれに取り組むか優先順位をつけましょう。



詳しく知りたい方は、北陸農政局発行の「農村型地域運営組織（農村RMO）形成の手引き」をご覧ください！

<https://www.maff.go.jp/hokuriku/nouson/attach/pdf/230420-2.pdf>